

## 12 弟子を派遣する

マルコによる福音 6:7-13

(そのとき、イエスは) 十二人を呼び寄せ、二人ずつ組にして遣わすことにされた。その際、汚れた霊に対する権能を授け、旅には杖一本のほか何も持たず、パンも、袋も、また帯の中に金も持たず、ただ履物は履くように、そして「下着は二枚着てはならない」と命じられた。また、こうも言われた。「どこでも、ある家に入ったら、その土地から旅立つときまで、その家にとどまりなさい。しかし、あなたがたを迎え入れず、あなたがたに耳を傾けようとしめない所があったら、そこを出ていくとき、彼らへの証しとして足の裏の埃を払い落とさなさい。」十二人は出かけて行って、悔い改めさせるために宣教した。そして、多くの悪霊を追い出し、油を塗って多くの病人をいやした。

### 説教

#### <イエスはプラス思考>

旧約の預言者たちは預言者になることを嫌がっています。喜んで手を上げたところのは預言者イザヤぐらいで、たいていの預言者はいやいやになった、ヨナは逃げれっこないのに逃げだしています。(ヨナ書1章参照) 彼らの多くは任命されたことをマイナスと捉えています。でも、イエスはよろこんで自分の使命を遂行している印象を受けます。福音書全体から受けるイエスの印象はプラス思考です。

#### <そんなイエスがうるさいことを言う>

イエスがあれをやっちゃだめ、これもダメと弟子たちの派遣に関してあれこれ注文をつけることは福音書のなかではめずらしいことです。その注文が旧約の預言者のイメージに重ならないこともありません。規則だらけのイエスの教え、これははっきりいって「らしく」ありません。きょうの福音の解釈

のひとつにこの出来事は初代教会の聖職者派遣式の儀礼を描写した、言い換えればイエスはこんなことはしていないというものがあります。ルカ福音書10章には12人の派遣に加えて72人の派遣のようすが記されています。これも実際のイエスの行いではなく、初代教会のようすを語っていると解釈するとスムーズに理解できるように思えます。

### <イエスのように生きるとは>

福音書のイエスは旅人です。

**狐には穴があり、空の鳥には巣がある。だが、人の子には枕する所もない。** マタイ  
8:20

これがイエスの生活でした。旅から旅へ、生まれ故郷に行ったのも決して帰省ではなく旅の一部でした。そしてイエスに従うということは文字通りイエスと共に旅から旅への生活をするということに他なりませんでした。

イエスの旅は観光やレジャー、帰省ではなく宣教の旅であり、病気治し・救いの技でした。きょうのテキストで弟子たちは派遣され、そこで何をするかというとイエスと同じこと、宣教して病気治しをしました。そしてそれができたと書いてあります。

イエスに病気をなおしてもらえば人々はよろこびます。イエスを歓迎する町は多く、もう行くの、まだいてよ、という人々とのやり取りが福音書によく出てきます。

**その際、汚れた霊に対する権能を授け、旅には杖一本のほか何も持たず、パンも、袋も、また帯の中に金も持たず、ただ履物は履くように、そして「下着は二枚着てはならない」と命じられた。6:7b-9**

イエスは弟子の派遣にさいして、このように注文をつけました。このことばを文字通りに解釈して原理的に実践することは間違っています。聖書に書いてあるからとカリカリしなくても、おのずとその人その時にあった派遣・宣教の方法が与えられることでしょう。わたしたちが日々の生活の中でイエ

スの声、神のご意志を受け入れる落ち着きを、そしてそれを聞き分ける耳が  
与えられますように。

-----